

特集

指導と評価の実践報告①

2020年4月、小学校高学年で外国語が教科化され、数値による観点別評価をおこなうことになりました。 どのように指導し、評価をすればよいのか、多くの先生方が悩まれた一年だったのではないでしょうか。 今回は、小学校英語教科書 *CROWN Jr*. を使用している小学校での指導と評価の実践例をふたつご紹介します。最初は、兵庫県西宮市立甲子園浜小学校・飯塚泰晴先生の、5年生 Unit 2の JUMP を中心とした実践例です。

はじめに

新学習指導要領における学習評価では、目標に準拠して設定された評価の観点として、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」という3つの観点が設定されています。指導要録のための学習評価を行う際には、まず目標を設定し、その目標に対しての児童



の学習状況がどの程度であるかを3つの評価の観点(「知識・技能」,「思考・判断・表現」,「主体的に学習に取り組む態度」)から把握し,3段階(A「十分満足できる」,B「おおむね満足できる」,C「努力を要する」)で評価します。その上で,観点別学習状況の評価を総括し,3段階(1~3)の評定を記録することとなります。

バックワードデザインで

昨年度(令和2年度)の教科化を受け、評価方法について検討するにあたり、本校の外国語科では「つけたい力」=「評価する内容」と捉え、指導と評価の一体化を目指すこととしました。*CROWN Jr.* は一学年の学習を学期ごとに3つの大単元に分けてあるので、各学期のゴールまで見通しを持って指導と評価を行うことができるメリットがあります。(もちろん児童にとっても、学習に見通しを持てるということはメリットです。)

教員は、児童が「つけたい力」をつけるためには、いつ頃までにどの程度学習を積み重ねていけばよいかを、ゴールから立ち返って、毎時間の学習につながりを持たせることを意識して授業を計画します。

ゴールを明らかにして

CROWN Jr. 5年生 Unit 2(本校では 2 学期)では、「先生や友だちを紹介する」ことを学習します。ゴールの活動としては、「インタビューした先生を紹介しよう」というテーマで、グループプレゼンテーションを行うこととしました。上述の通り、CROWN Jr. は学習を学期ごとの大単元に分けてあるので、学習をスタートする段階で児童に学期末のゴールとなる活動をイメージさせることができます。児童が具体的な姿をイメージできるように、HOPのページだけでなく、JUMP のページにあるイラストやモデル動画も活用しました。

児童は学期末にできるようになることを学期のはじめに知ったことで、自身のゴールの姿を想像して、目標を持って授業に取り組むことができました。「○○先生と英語で話してみたい」「○○先生のことをみんなに教えたい」など、各児童が期待や希望を胸に抱いて学習をスタートさせました。

2 学期の学習と評価について: Unit 2 (28 時間)

		時数	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	態度 ^{*2}
НОР	Get Ready 2	1			0
	Lesson 3	7	0	0	0
STEP	Lesson 4	7	0	0	0
E	Try	1			0
	Lesson 5	7	0	0	0
PZEE	Presentation 2*1	5		0	0

*1 Presentation 2 のインタビューは時数外で行った。 *2 態度 = 主体的に学習に取り組む態度

HOP, STEP, JUMP と段階を踏んで

HOP で学びの見通しを立てた児童は、STEP で英語の表現 を学んだり練習したりして、使いながら身につけていきます。 5年生の児童は、これまでに教室の前に立って英語で発表 をする経験は多くありませんでした。英語で話す緊張に加え, みんなの前に立つ緊張もあり、発表に苦手意識を持つ児童も 見られました。そこで、Lesson 3 "My Hero", Lesson 4 "My Weekend", Lesson 5 "My Favorite Subject"と, 各 Lesson の終わりには、学習内容に沿ったテーマを決め、1 ~3文程度の簡単なスピーチに取り組みました。回数を重ね ると、英語で話すことにも、みんなの前に立つことにも慣れ ていきました。また、前に立つ人数や、スピーチの形式に変 化を持たせて、発表に飽きさせないことも心がけました。こ れらのスピーチの評価は、主に「思考・判断・表現」、「主体 的に学習に取り組む態度」の観点から判断しました。なお、 「知識・技能」の観点については、教科書への書き込み、ワー クシートの点検により判断しました。

全教員を巻き込んだインタビュー

JUMPでは、「先生にインタビューをして、わかったことを伝えよう」という活動が設定されています。前半の JUMP ①では、事前準備の後、グループに分かれて教員にインタビューをします。

この実践では、日常関わることのない大人と英語を使って

やり取りする経験が価値のあることと考え, 職員会議の場で協力を依頼し, 教員全員がインタビューを受けられる体制を整えました。併せて, 英語を使うモデルとしてはっきりと大きな声で回答してほしいことや, インタビューのよかった点やアドバイスを児童に話してほしいことを伝えました。

インタビュー本番では、外国語活動・外国語科の指導に関わらない教員が活動に興味を持ち、笑顔で児童のインタビューに答え、やり取りを楽しむ姿が見られました。多くの教員の協力を得られたことで、何より児童にとって、インタビューする時、その後 JUMP ②でインタビュー結果の発表を聞く時、それぞれ興味を持って取り組める活動となりました。

インタビューした先生を紹介しよう

後半の JUMP ②では、グループでのインタビューで得た情報を整理して、プレゼンテーションを行います。

CROWN Jr. 紙面では、スリーヒントクイズにまとめて出題していますが、この実践では、活動形態や教室環境を考慮して、当初より「インタビューした先生を紹介しよう」というテーマで、グループプレゼンテーションを行うこととしました。

JUMP ①でインタビューを終えた児童は、STEPでの経験を存分に生かし、He や She を用いて、先生のできることや得意なことについて伝える文章を作りました。その後、一人ずつ作った文章をグループで確かめたり、紹介する順番を考えたりしました。計画、準備の間は、「インタビューした先生のことを、クラスのみんなによりよく伝えるためには、どんな工夫ができるか」を意識させるようにしました。どのグループも、プレゼンテーションに向けた話し合い、リハーサル、修正や改善の話し合いを経て、プレゼンテーション本番に臨むことができました。

本番のプレゼンテーション発表会では、いろいろな先生のできることや得意なことについて紹介があり、たくさんの発見や気付きがある時間となりました。「今度は英語で〇〇先生とも話してみたい」「〇〇先生に他のことも英語で聞いてみたい」など、各児童にとって、さらに次の学びにつながる学習のゴールとなりました。

パフォーマンス評価の導入

行動観察,教科書とワークシートの点検(授業で行った書く活動など),ふりかえりシートの点検(単元末に実施)といった従来の評価方法に加え、上記のJUMP②の実践では、児童一人一人の学習状況を把握して評価する方法として、パフォーマンス評価を用いることにしました。

パフォーマンス評価では、事前にルーブリックによる評価 基準を示すことで、教員によってなされる評価を明確にす る必要があります。今回、ゴールの活動として取り上げた JUMP②「インタビューした先生を紹介しよう」では、「思考・ 判断・表現」の観点で3段階評価をするにあたり、教員とし て以下を判断の基準と考えました。そして、プレゼンテーショ ンに向けたグループの話し合いを開始する段階で、児童に提 示して共有することとしました。

- A…ふさわしい表現方法を用いて、伝える内容を選んだり、順番を工夫したりしている。また、相手のことを意識して伝えている。
- B…ふさわしい表現方法を用いて、伝える内容を選んだり、順番を工夫したりしている。
- **C**…ふさわしい表現方法を用いて、伝える内容を選んだり、順番を工夫したりしていない。

なお、実際の授業では、児童に伝わりやすい言い回しを用いて、できるだけ具体例を挙げて説明をしました。また、評価場面では「テスト」という名称は使わずに、「インタビューした先生のことを、みんなに紹介する発表会をしよう」と伝えることで、児童に緊張感を抱かせず、いつもの授業と同じように取り組めるよう配慮しました。

ルーブリック共有の成果

教員がルーブリックを提示し、児童と共有したことにより、 児童は伝えようとする内容を整理したり、順番を吟味したり するようになりました。また、その内容を伝えるため適切な 表現を自発的に調べたり、より相手に伝わりやすくするため の方法を考えたりする姿も見られるようになりました。結果 として、本番のプレゼンテーションの段階では、多くの児童 が「つけたい力」をつけられていました。

6年生についても同様の成果が見られ、CROWN Jr. 6年生 Unit 2のJUMP「小学校での思い出を伝えよう」の学習では、自身の思い出をクラスのみんなによりよく伝えようと工夫する児童の姿が見られました。また、これら児童の思考や工夫については、単元末に実施したふりかえりシートの記述からも読み取ることができました。

おわりに

この実践にあたっては、外国語科専科教員として、単独でルーブリックを決定し、パフォーマンス評価を実施しました。判断の基準が抽象的で、児童が基準を明確に理解しにくいこともありました。今後、項目ごとに具体的な基準を設定する必要性を感じます。本来、パフォーマンス評価を実施するにあたっては、どのような目的、項目で行うのかを教員間で話し合い、決める必要があります。いつ、誰が、どのように評価を行うのかについても、検討していかなければなりません。ルーブリックの決定には、時間も手間もかかります。しかし、手順を踏むことにより評価基準がより明確にでき、目標で定めた能力を適切に評価していくことができます。そして、それが児童の学習活動の充実、自身の指導改善につながるものと考えます。



飯塚泰晴(いいづか・よしはる)

兵庫県西宮市立甲子園浜小学校教諭。平成29・30年度 西宮市小中一貫英語教育研究委員,令和2年度兵庫県英 語教育改善プラン推進事業英語教育推進員として,学び の接続を意識した外国語教育における小中連携や,新学 習指導要領に基づく指導方法等の研究を行う。

特集

指導と評価の実践報告②

外国語が教科化され、成績評価をするようになったことで、「英語嫌いの子を増やしてしまうのではないか」と懸念されている先生方も多いと思います。英語への苦手意識を持たせないためには、どのように評価に向けた準備をおこなうとよいのでしょうか。神奈川県秦野市立末広小学校6年生の1,2学期におこなわれた、Unit 1, Unit 2の実践例を、辻田香織先生に紹介していただきます。

はじめに

CROWN Jr. 6年生の教科書には、HOP、STEP、JUMPで構成されたUnitが3つある。そして各Unitの最後に、学習した内容の総合的な表現活動の場面として、Presentation(JUMP)が用意されている。令和2年度は、指導書で提示されているよりも短い時間数で Presentationの活動に入



らざるを得ず、「この時間数、この方法でよかったのであろうか?」と自問する日々であった。また、評価の仕方についても、発話やコミュニケーション活動を十分に練習できない中でどうするべきなのか、今でも私自身疑問に思っている。しかしながら、1 学期、2 学期に実施した Presentation 活動を軸に、実践したことを紹介したい。

1 学期の学習と評価について: Unit 1 (15 時間)

		時数	知識· 技能	思考· 判断· 表現	態度
H O P	Get Ready 1				0
	Lesson 1 WS	10	0		
STEP	CT		0	0	
E	Lesson 2 WS		0		
	СТ		0	0	
JUMP	Presentation 1	5	0	0	0

※ WS =ワークシート

CT=チェックタイム。設問を追加するなどして思判表も評価した。

私の勤務校では、休校期間を経て、6月からは分散登校が始まった。7月を目前にようやく一斉授業を実施できるようになったが、会話をするのも控えながらの机上での学習が続いた。令和2年度の外国語の始まり方は、児童にとっては負担感が高かったように思う。前年度までは、English Gameや Interview Quiz など、コミュニケーションをとりながら、時には競争しながら、楽しく活動するのが外国語の授業だったためだ。また、これまではあまり触れられていなかった「書く」という学習内容も格段に増えた。「教科書」を利用することで生まれた「評価」の側面についても、教師側はもちろんのこと、子どもたちにとっても得体の知れない1学期だった

と思う。

そのような状況の中で、受け持っている6年生は、私が前年度から外国語を教えていた子どもたちであったのは幸いであった。*We Can! 1* からの既習の学習内容もお互いにわかり合えている中で、なんとか Presentation (JUMP) ヘチャレンジさせるように促した。

Get Ready 1 から Lesson 1, 2 までの各単元においては, 指導書の付属教材にあるワークシートなどを利用して、「知識・ 技能」の評価の一部とした。小学校の外国語では、英字をな ぞったり、書き写したりすることができるように求められて いる。発話活動もあまりできない時期であったので、ワーク シートにしっかり書き取れているかを ALT と一緒に見て回っ た。また、単元ごとに、テストでの評価を行った。Lesson 1 とLesson 2の終盤には、指導書付属の「チェックタイム」 を利用してテストを実施した。チェックタイムでは、「知識・ 技能」と、「思考・表現・判断」の評価を行った。学級担任から、「子 どもたちにとっては初めての外国語のテストとなるため、事 前練習をしてほしい」との要望があった。そのため、テスト に利用されているものと同じイラストを利用して、出題のス タイルも似せた練習問題を作成し、タブレットからモニター に映したり、リズム読みのアクティビティーに使ったり、プ リントとして配布したりした。そのため、ほとんどの児童が 満点を取ることとなった。中学校の英語の教員をしていたと きには、ここまで丁寧な事前練習型のテストなどはしたこと がなかったので、気がつかない視点であった。英語に対して 苦手意識を持たせないようにしたいという想いは、学級担任 も専科教員も同じである。私自身の中にある評価のハードル を下げ、目の前の子どもたちの努力と成果が自信につながる のを見て、事前練習をやるべきだと感じた。

Presentation 1 では、英語で学校紹介をするのがターゲットである。しかしながら、令和2年度は、学校行事が中止、延期、縮小となる事態が絶え間なく続いていた。1 学期中、子どもたちの中には、「どうせこの行事はできないよ、先生。できないことを言うの?」という声があった。そのため、当初から別のテーマで同様のプレゼンテーションをさせようと考えていた。前年度利用していた We Can! 2の "I like my town."をアレンジして、『わたしたちの街、秦野』を紹介する英語ポスターを作り、グループごとに練習、動画撮影をし、クラス全員でプレゼンテーション発表会を持った。ここでは、ポスター作成に取り組む「態度」、できあがった英文の正確さと内容で「知識・技能」と「思考・判断・表現」を、動画撮影時の「態度」や英語をリーディングするときの「表現」などの評価を行った。

外国語の時数としては5時間を使ってPresentation 1を行ったが、学級担任の先生方が時間をやりくりして、休み時間や他の時間にフォローしてくださったことも追記しておく。

2 学期の学習と評価について: Unit 2 (28 時間)

		時数	知識· 技能	思考・ 判断・ 表現	態度
HOP	Get Ready 2				0
онпр	Lesson 3 WS CT Lesson 4 WS CT Animal Quiz Reading Try Lesson 5 WS CT	22	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0
JUMP	Presentation 2	6	0	0	0

評価の取り方については、概ね1学期と同様である。以下、1学期とは異なる活動について記したい。

Lesson 3の「夏休み の思い出」を扱う際には、 「ステイホーム」と言われ 続けた夏休みを赤裸々に 語るのも難しく, 「先週末, 何をしたかな?」という テーマに置きかえ,一般 動詞の過去形表現に慣れ させた。続いて、Lesson 4の「様子や特徴」では, グループごとに教科書58 ページのような Animal Quiz を作り、クラス内で 発表させた。教科書内の 指示だけでは子どもたち にはクイズを作りにくい ようだったので、外国語 が不得手な子どもにも簡 単にできる独自のワーク シートを用いた。

また、中学1年生を見





Animal Quiz のワークシート



CROWN Jr. 6 p. 57 Enjoy Reading

据えての視点で、初めて"Reading Test"を実施した。教科書 57ページの Enjoy Reading を課題とした。以前勤務していた中学校で行っていたものと同様の Evaluation Card を配

り、テスト日程を予告して実施した。評価項目は4つ、「声の大きさ、明瞭さ」「発音の正確さ」「イントネーション」「表

	6 No.		
man a	Nan	ne:	
① 声の大きさ、明瞭さ	A	В	С
② 発音の正確さ	Α	В	С
③ イントネーション(タヘ)	Α	В	С
④ 表現力 (暗記)	A	В	С

現力 について、各 Reading Test の Evaluation Card

3 段階評価とした。(A:大変よくできている B:できている C:もう少し練習しよう)

中学生と同じ課題だと聞き、チャレンジ精神を発揮する児 童が多く、何度も挑戦して A 評価をとっていた。

そして、Lesson 5 までの学習内容を利用して、Presentation 2 (JUMP) の "My best memory is . . ." に取りかかった。 巻末教材の「Memory Book」を利用し、6年間の思い出を イラストと英語で表現した。教科書では、学校行事や教科に 絡めた各学年の思い出を伝える方法が示されていたが、実際 のところ、低学年当時のことを記憶していない児童が多かっ た。「入学式のことなんて記憶にない。どんな気分だったか も覚えていない」という正直な声があがった。5・6年だけ の Memory Book となったり、学校のことを表現するよりも、 毎年の家族旅行の思い出など自分のことを表現したりするほ うがよいという児童も見うけられた。小学生には、より「自 分のこと」として捉えられるような教材の使い方がよいと感 じた。最終的には、自分の Memory Book を友だちに紹介し た後、ALTとJTに思い出の1ページを英語で紹介する場を 設定した。Memory Book を作成する場面での英語に向き合 う「態度」、どんな過去形の表現を使うかという「知識・技能」、 それを人に伝えられたか、という「思考・判断・表現」の3 観点のすべての評価を取った。子どもたちは、このような表 現活動の場面ではとても生き生きとしていた。

今後について

本市では1学期の評価は出さなかったため、2学期が初めての外国語の評価となった。中学校の教員をしていた身からすると、線引きは甘くせざるを得ない面があった。筆記テストに関しては、点数をありのまま評価に取り込んだが、それ以外の、ワークシートの出来映えや外国語に臨む態度をどのように評価するかは、難しいところだった。専科教員と学級担任の両方の意見を取り混ぜ、評価をし直した児童もいたのが正直なところだ。「英語嫌いの小学生が生まれないようにするには、どうしたらよいか」というのが、私自身が仕事をする上でのテーマでもある。その思いを学級担任の先生方と共有しながら、未完成で純粋な小学生の知識欲を絶やさないような授業、表現活動、そして評価を志すべきだと感じている。



辻田香織(つじた·かおり)

神奈川県秦野市立南が丘小学校、末広小学校にて外国語 専科教諭として勤務。2018 年度までは、中学校英語科教 諭。中学英語を指導してきた経験を活かし、We Can! か ら教科書への移行期を経て、指導要領改訂後の中学英語 へのスムーズな接続を目指し、日々授業実践と改善を試 みている。

GIGAスクール構想 最前線

やぶみよう 英語活動

特(別(編

これで バッチリ!

Chromebookで「小学校英語」授業

Chromebook が届いたけれど、どのようなことに活用すればよいのか、そもそも、どのようなことに活用できるのか、なかなかイメージしづらいという先生方もいらっしゃると思います。今回は、2017 年度から段階的にChromebook を取り入れてきた、東京都町田市の事例について、町田市教育委員会事務局にお聞きしました。

町田市が取り組む新しい教育

町田市では、Google Workspace for Education(以下、Google Workspace)で取り組む「新時代の授業」として、小中学校での Chromebook を活用した授業研究に取り組んでいます。まずは、Google Workspace 最大の特長である共同編集機能を、さまざまな学習場面に応じて活用することで、対話・協働・探究に軸をおいた、創造的な課題発見および解決能力の育成や、情報活用能力を伸ばす授業の実現をめざしています。

さらに、令和3年度以降は、一人一台端末環境が整うことで、 Chromebook の持ち帰りにより、授業と家庭学習のサイクルを つくり、学校での学びを家庭でも持続的に発展させたいと考え ています。

Chromebook の活用により、先生方の働き方にもよい影響が出始めています。児童・生徒と同じく、クラウドでの運用により業務が効率化され、これまでと比べ、学校での滞在時間が短縮されたとの声もあります。

Chromebook を活用するために

いかにして Chromebook を活用するかという点は、悩ましいところだと思います。町田市では、学級・教科担任などを通して、順次使い方の指導を行っています。まず、先生が使ってみせて、児童・生徒に使いたいと思わせることを意識しています。 Google Workspace の共同編集機能を活用し、3人から4人のグループで児童・生徒同士が協働することで、相互に補い合いながら学習を進めることができます。最初から完璧を求めるのではなく、失敗をくり返しながら Google Workspace の使

い方を身につけられるよう、活用の場を設定することが大切です。 文字入力についても同様です。学校にもよりますが、小学校 高学年では、キーボードを使ったタイピングができる児童も多 くなっています。いきなりタイピングができるようになるわけ ではなく、Chromebookを活用し、段階的な指導を行ってい ます。低学年では、「Jamboard」を用いて、手書きやタッチ操 作による入力を中心にしています。タイピングはローマ字で行 うことが多いため、中学年からは、国語科でのローマ字の学習 と並行してタイピングを少しずつ導入しています。ローマ字表 を掲示したり、タイピング練習ソフトを活用したりと、学校ご とに実態に応じた指導を行っています。高学年になってからも、 ローマ字入力が苦手な児童には個別にローマ字表を配布するな ど、個に応じた指導をしながら、積極的に活用の機会を設定す るようにしています。

まずは活用してみることから

さらに、Google Workspace を活用して、先生方の授業 準備の負担軽減と深い学びの両立を図りたいと考えています。 「フォーム」を学習の振り返りを記録、共有するのに活用するほか、自動採点・集計機能により、小テストの配布・回収・採点の省力化に活用しています。

先生も、児童・生徒も、Chromebook で新しい学びを生み出すには、まずは活用してみることから。これからも、市内の先生方と連携し、一人一台環境のもと、Chromebook を活用した授業の研究を推進していきたいと考えています。

(町田市教育委員会/取材・構成 編集部)

用語解説

■ Chromebook [クロームブック]

Google の開発する Chrome OS を搭載した端末のこと。多くの機種で、タッチパネルを活用した直感的な操作とキーボードによる入力が可能。また、クラウドを活用することで高いセキュリティーと容易な管理・運用を実現している。

- Google Workspace for Education 「グーグル・ワークスペース・フォー・エデュケーション」 Google の提供する学習向けアプリケーション (以下, アプリ) 群のこと。アンケートやテストに活用できる「フォーム」「スプレッドシート (表計算)」「ドキュメント(文書作成)」「スライド(プレゼンテーションシート作成)」「Jamboard(仮想ホワイトボード)」など,さまざまなアプリが含まれる。先生と児童・生徒をつなぐアプリである「Classroom」を通じ,連絡や課題の配信・提出も可能。(旧称:G Suite for Education)
 - Jamboard [ジャムボード]

ホワイトボードのように、自由に手書きをしたり、付箋を貼ったりすることが可能なアプリ。複数の児童・生徒で共有することもできる。アプリの他に、Google が提供する 55 インチの電子ホワイトボードもある。

「スライド」を活用したクイズ大会

Chromebook を活用した町田市立大蔵小学校6年生の英語の授業をご紹介します!

単元

CROWNJr. 6 Lesson 5 It was green. (春と秋を比べて)

本時のながれ

●導入

教師が作成した スライドを見な がら、現在の状態 態と過去の状態 を比較する表現 を復習する。



導入の様子

●活動

①現在の状態と過去の状態を比較したクイズを作る。

- ・Chromebookを児童一人一台配布する。「Classroom」 から課題を開き、スライドを作成する。



クイズ作成中の様子

- ②クイズができた児童から、出題の練習をする。
- ③クイズ大会を行う。クラス全体を8グループに分け、それぞれのグループ内で出題者と解答者の役割を決める。解答者となった児童は各グループを回り、それぞれの出題者から出されるクイズに答え、ワークシートに記録する。
 - ・制限時間内に何問答えられるかに挑戦する。
 - ・前半,後半で役割を交代する。
 - ・10 問以上答えられた児童にはシールを渡す。

●振り返り

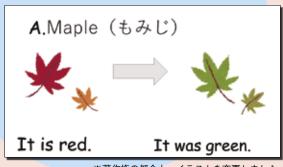
・ 友達のよか<mark>ったところや,自分の成長</mark>したところを記録 し,発表する。



クイズ大会の様子

Q. What is this?

It is red. It was green. 児童が作成した クイズのスライド



※著作権の都合上、イラストを変更しました。

児童の反応・変容

- ・Chromebook と Google Workspace (のアプリで作成 したスライド)を活用することで簡単にクイズを作るこ とができるため、画像や内容を工夫しようと、意欲的に 取り組む姿が見られた。
- ・クイズ作りの際のタイピングと、クイズの出題と解答の 際の発音とで、つづりと音をさらに意識するようになった。

東京都町田市

東京都西部の多摩地域の南に位置し、東京都内では島嶼部を除き最南部に位置する。人口約43万人は東京23区、八王子市に次いで多い。小学校42校、中学校20校がある。市政基本計画「まちだ未来づくりプラン」に基づき、「町田市教育プラン2019-2023」において、英語教育にも注力しており、「教育で選ばれる町田」を目指し、「えいごのまちだ事業」を実施、児童を対象とした放課後英語教室や教員の英語の授業を支援する「Machida English Promotion Staff」MEPSの配置などを行っている。また、2017年度より5ヵ年計画で教育の情報化推進にも取り組んでいる。

ACE

小学校英語の現場の実践から 紡ぎだされた、むりなくできる 音から文字への指導

小学校英語

だれでもできる 英語の音と文字の指導 山本玲子·田縁眞弓 [著]

定価 2,090円 (本体 1,900円+税10%) A5判 160ページ ISBN 978-4-385-36140-6



第1部 音の指導

第1章 文字指導の前に音に触れる

第2章 音韻認識を高める 第3章 音節を意識させる

第4章 リズム感覚を身につける

第5章 音への身体性を育てる

特別講座 本物の題材は子どもの心を動かす

第2部 文字の指導

第1章 文字指導のこれまで

第2章 文字指導のこれから

―「読むこと」「書くこと」のメソッド

第3章 ローマ字の指導





第3部 音と文字の指導の実際

- KEETメソッド 7つのステップー

- A. アルファベットの形の認識と名称読みができる
- B. アルファベットの音読みがわかる
- C. 単語が音素で成り立っていることを認識する
- D. 単語が読める(という認識を持つ) ートップダウンとボトムアップ指導
- E. アルファベットの大文字·小文字を4線上に書ける
- F. 語や定型文を筆写する
- G. オリジナルの文章を書いてみる



- ●とことんわかりやすく、理論に基づいているからこそ納得!
- ●クラスルームイングリッシュとともに実践例を具体的に紹介!
- ●本書紹介のワークシートは当社ウェブサイトよりダウンロード可能!

著者の先生からのメッセージ

とことんわかりやすく、かつ理論に基づいているからこそ 納得できる本です。現場で起こったエピソードや現場で 聞いた悩みなどをたくさん盛り込みました。(山本)



指導例は、実際におこなった授業をもとに先生のティーチャートークの具体例も入れています。目指す子どもの姿が 先生方にはっきりとイメージできるように書きました。(田縁)

https://tb.sanseido-publ.co.jp/relatedbooks/rb-english/rb-english-book/shoei-mojishido/

三省堂教科書・教材サイト https://tb.sanseido.co.jp/

クシートは ェブ<u>より</u>

ウンロード できます。

2020年度版小学校英語教科書サイト https://tb.sanseido-publ.co.jp/02cjpr/

三省堂

〒101-8371

東京都千代田区神田三崎町 2-22-14 TEL(O3)3230-9411(編集)·9412(営業)